安全データシート

JIS Z 7252:2025、JIS Z 7253:2025 準拠。GHS 分類は JIS Z 7252 附属書Aを参照。

SDS番号: PL-XC-2026-JP-001
改訂日: 2026-09-11

1. 化学品及び会社情報

1.1 製品名

化学品の名称	Polymaker TPU95 Matte
製品コード	PI code: U2095A
推奨用途及び使用上の制限	3Dプリント用フィラメント。人体への埋め込み、食品接触用途以外での使用は推奨されません。

1.2 供給者の会社情報

供給者	JF Polymers (Suzhou) Co., Ltd. 苏州聚复科技股份有限公司
住所	Building 6, No. 369, Lushan Road, Suzhou City, Jiangsu Province, China 215129
電話番号	+86 512 6295 2580
メール	support@polymaker.com

1.3 緊急連絡先

+86 512 6295 2580（営業時間：9:00-17:30）

2. 危険有害性の要約

2.1 GHS分類

JIS Z 7252:2025 による分類

危険有害性項目	分類	区分
物理化学的危険性	分類できない	-
健康に対する有害性	分類できない	-
環境に対する有害性	分類できない	-

2.2 GHSラベル要素

絵表示	なし
注意喚起語	なし
危険有害性情報	該当なし
注意書き	該当なし

2.3 他の危険有害性

本品は通常の条件下では危険有害性は低い。溶融状態では皮膚への接触で熱傷を負う可能性がある。粉塵の吸入は呼吸器刺激を引き起こす可能性がある。

本品は有機ポリマーフィラメントであり、GHS 基準により可燃性固体には分類されないが、物理的に可燃性であり、極めて高温や着火源の存在下で燃焼する可能性がある（セクション5、9、10参照）。

3. 組成、成分情報

3.1 単一製品・混合物の区別

混合物

3.2 成分情報

化学名又は一般名	CAS番号	含有量(%)	官報公示整理番号(化審法)	分類

熱可塑性ポリウレタン（TPU）	9009-54-5	85-99%	-	分類できない

4. 応急措置

4.1 応急措置の記述

吸入した場合	新鮮な空気の場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。気分が悪い場合は医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	多量の水で洗う。溶融物による熱傷は病院の処置が必要。
目に入った場合	水で数分間注意深く洗う。刺激が続く場合は医師の診断を受ける。
飲み込んだ場合	口をすすぐ。気分が悪い場合は中毒センターまたは医師に連絡する。
医師への注意事項	対症的に治療する。

4.2 最も重要な症状及び影響

通常の条件下では症状は知られていない。溶融状態での接触は重度の熱傷を引き起こす可能性がある。粉塵は呼吸器刺激を引き起こす可能性がある。

4.3 即時の医療処置と特別な治療

対症療法。支持療法を行う。

5. 火災時の措置

5.1 適切な消火剤

適切な消火剤	水噴霧、耐アルコール泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素。
不適切な消火剤	強い水流は使用しない（火災を蔓延させる恐れがある）。

5.2 特有の危険有害性

火災時の特有の危険有害性：通常の条件下では火災の危険はない。
火災時の分解生成物：一酸化炭素、二酸化炭素、有機分解生成物。特定の燃焼条件下では他の有毒物質の痕跡が含まれる可能性がある。

5.3 消防士への助言

必要に応じて自給式呼吸器を着用する。完全保護服。安全な距離と保護された場所から消火活動を行う。火災に曝された容器の冷却に水噴霧を使用する。

6. 漏出時の措置

6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

一般的な措置：製品が下水道や公共用水域に入った場合は当局に通知する。こぼれた物質を回収し、周辺材料への損傷を防ぐ。製品漏出時のスリップリスクが高い。

6.1.1 緊急時対応者以外

漏出区域を換気する。目との接触を避ける。推奨される個人保護具を着用する。

6.1.2 緊急時対応者

適切な保護具を着用せずに介入しない。詳細はセクション8を参照。

6.2 環境に対する注意事項

環境への放出を避ける。下水道や水路に侵入させない。本製品の環境への放出を防ぐ。

6.3 封じ込め及び浄化の方法及び機材

封じ込め	きれいなシャベルで物質を乾燥した容器に入れ、圧縮せずに覆う。
浄化方法	機械的に（掃き取り、シャベルで）回収し、廃棄用の適切な容器に集める。
その他の情報	固体状の物質または残留物を許可された施設で処分する。

6.4 他のセクションへの参照

セクション8および13を参照。

7. 取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための注意事項

処理時の追加危険	通常の使用条件下では重大な危険は予想されない。
安全な取扱いのための注意事項	作業場の換気を良好にする。個人保護具を着用する。目及び皮膚との接触を避ける。粉塵の形成を避ける。適切な接地と等電位接続を確保する。火花の出ない工具を使用する。静電気放電に対する措置を講じる。粉塵の蓄積を避ける（定期的に清掃する）。
衛生上の注意事項	使用中は飲食や喫煙をしない。製品取扱後は常に手を洗う。

7.2 保管条件、不適合物質を含む

技術的対策	熱源から離れた涼しく換気の良い場所に保管する。容器を密閉して乾燥状態に保つ。
保管条件	換気の良い場所に保管する。涼しく保つ。直射日光から保護する。着火源、スパーク、高温表面、裸火から離す - 禁煙。強酸化剤と一緒に保管しない。
包装材料	製品は常に元容器と同じ材質の容器に保管する。
保管クラス (LGK, TRGS 510)	LGK 13 - 不燃性固体

7.3 特定の最終用途

利用可能な情報なし。

8. ばく露防止及び保護措置

8.1 管理パラメータ

8.1.1 職業暴露限界値

成分	CAS番号	日本産業衛生学会	ACGIH TLV	OSHA PEL	NIOSH REL	EU IOELV	備考
熱可塑性ポリウレタン (TPU)	9009-54-5	–	–	–	–	–	–

上記に記載されていない物質については、本情報源から作業場暴露限界値は得られない。許容濃度（産衛学会勧告値）は日本産業衛生学会により設定される。

8.1.2 推奨される監視手順

利用可能な情報なし。

8.1.3 生成される大気汚染物質

利用可能な情報なし。

8.1.4 DNEL 及び PNEC

利用可能な情報なし。

8.1.5 コントロール・バンディング

利用可能な情報なし。

8.2 ばく露防止

8.2.1 適切な技術的管理

作業場の換気を良好にする。

8.2.2 個人保護具

眼/顔の保護	必要に応じて保護メガネを着用する。
皮膚の保護	特別な保護措置は必要ない。
呼吸器の保護	換気が不十分な場合は、適切な呼吸器用保護具を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

9.1 基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

物理的状態	固体（フィラメント）
色	各種
臭い	無臭
融点/凝固点	データなし
沸点/沸騰範囲	データなし
引火点	データなし
可燃性（固体、気体）	可燃性固体として分類されていない（有機ポリマーとして物理的に可燃性）
爆発限界（下限/上限）	データなし
蒸気圧	データなし
密度	1.170 g/cm³
溶解度	水に不溶
分解温度	データなし
pH	データなし
動粘度	データなし

物理的燃焼性に関する注記：本品は GHS 基準により可燃性固体として分類されない。しかし、有機ポリマーとして物理的に可燃性であり、着火源や極めて高温に曝された場合に燃焼する可能性がある。分解温度を超えると、本品は発火して燃焼を維持し、炭素酸化物や他の熱分解生成物を放出する（セクション5および10参照）。

10. 安定性及び反応性

10.1 反応性	通常の使用、保管、輸送条件下では反応性はない。
10.2 化学的安定性	通常の条件下では安定。
10.3 危険有害反応の可能性	通常の使用条件下では既知の危険有害反応はない。
10.4 避けるべき条件	不適合物質。極端な温度。
10.5 不適合物質	強酸。強塩基。強酸化剤。
10.6 危険有害な分解生成物	炭素酸化物（CO, CO2）

11. 有害性情報

本製品全体としての毒性データは利用できない。

11.1 危険有害性クラスに関する情報

急性毒性（経口）	データなし
急性毒性（経皮）	データなし
急性毒性（吸入）	データなし
皮膚腐食性/刺激性	データなし
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	データなし
呼吸器感作性/皮膚感作性	データなし
生殖細胞変異原性	データなし
発がん性	データなし
生殖毒性	データなし
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	データなし
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	データなし
誤えん有害性	データなし

12. 環境影響情報

12.1 生態毒性

データなし。水生生物に対して有毒とは見なされない。

12.2 残留性・分解性

データなし。易生分解性ではない。

12.3 生体蓄積性

データなし。生体蓄積性は予想されない。

12.4 土壌中の移動性

データなし。移動性は予想されない。

12.5 PBT 及び vPvB 評価結果

本物質/混合物は REACH に基づく PBT または vPvB の基準を満たさない。

12.6 内分泌かく乱特性

本物質/混合物には内分泌かく乱特性はない。

12.7 その他の有害影響

利用可能な情報なし。

13. 廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

地域、国の規制に従って処分する。物質は許可された産業廃棄物処理施設で処分するか、認定された施設で焼却処分する。環境中に放出しない。

14. 輸送上の注意

国連番号	割り当てなし（危険物として分類されない）
国連輸送名	非該当
輸送危険物クラス	非該当
容器等級	非該当
環境有害性	環境有害物として分類されない
使用者への特別な注意事項	通常の条件下では特別な注意事項は必要ない。

15. 適用法令

15.1 化学品安全、 health and environment specific legislation for the substance or mixture

化審法: 全成分は化審法既存化学物質リストに掲載されているか、適用除外です。
安衛法: 該当なし。
毒劇法: 該当なし。
消防法: 該当なし。
PRTR法: 該当なし。

16. その他の情報

16.1 改訂情報

改訂 1.0 | 日付: 2026-09-11 | 初版

16.2 略語と頭字語

GHS: 化学品の分類及び表示に関する世界調和システム
JIS: 日本工業規格
PBT: 難分解性・生体蓄積性・毒性

vPvB: 極めて難分解性で極めて高蓄積性
UFI: 一意の配合識別子

16.3 分類の基礎

分類は JIS Z 7252:2025 および JIS Z 7253:2025 に基づく。

16.4 免責事項

本 SDS の情報は現在の科学的知見に基づいており、発行日時点で正確と見なされる。本製品の特定の使用について、適切な専門知識と能力を持つ人々を対象としている。